

第3回奈良県地域教育力サミットのまとめ

日時：平成25年2月18日（月）14:00～16:00
場所：春日野荘2F 飛鳥の間

<各部会からの報告>

<第1部会> 地域の参画、協働による教育部会

子どもたちの規範意識・社会性の向上を図る地域コミュニティの再構成と生涯を通じた教育理念を考える。

<現状>

地域と共にある学校づくり
H25 公立小中学校の85%で実施（奈良モデル）
先行モデルとして、県立学校7校で実施（県立モデル）

地域への帰属意識
社会的な絆
豊かな学び

規範意識の醸成
社会性の向上

<課題・方向性>

関係者の理解促進 学校をベースとした着実な取組 行政機関によるバックアップ

<第2部会> 地域で働ける就労教育部会

地域で育ち、地域で学び、地域で働ける教育や環境づくりを考える。

<現状>

学生

基礎学力
コミュニケーション能力
職業意識

低下・不足

企業

即戦力を求める傾向
人材を育てる余裕がない

<課題・方向性>

学校と就職との接続 産業界と教育界の連携、協議のあり方

<第3部会> 障害者の就労、社会参加教育部会

障害のある者が就労や社会参加できる教育と環境づくりを考える。

<現状>

障害者の社会参加、職業実習の充実のためには

学校・家庭の意識、企業・社会（地域）の関わりが低い
行政によるバックアップが不十分
就職率100%を目指す取組（高等養護学校の例）

<課題・方向性>

関係機関による支援、情報交換 学校長のイニシアティブ
就学、居住、医療・福祉を地域で確保 職場実習の位置付け

<第4部会> 学校・地域スポーツ連携部会

学校体育と地域スポーツの関係を見直し、学校を含む地域コミュニティにおける地域スポーツの振興を考える。

<現状>

総合型地域スポーツクラブと学校部活動の連携ができていない
市町村では、行政が中心となり、事業を実施

<課題・方向性>

指導者同士の交流や高齢者の参加 具体的な取組の実施と情報発信
施設の共用 県、市町村の連携による推進協議会等の設置
学校・保護者・地域による推進協議会の設置

<知事発言要旨>

学校と地域との連携

- 奈良モデルによる規範意識の改善結果を客観的に評価をしていく。
- 学びの過程において、失敗を通して学ばせていくメソッドが必要。
- 子どもの環境や個人の個性の変化と公教育、小中学校教育のあり方が問われている。
- 地域と対話をしようとして学校が踏み出したというのが大きな特徴。試行錯誤の中に良い知見が発生する可能性がある。

就労、障害者の就労、地域スポーツについて

就
労

- ある程度働いてから、学校に行く等、学ぶタイミング、働くタイミングを。
- 地域の就職と学校との接続は、構造的に相当大きな課題。教育だけでは解決できない。
- 教育界と産業界が働く人をどう育てるのかという根源的な課題をもち続けることが必要。
- 職業専門学校を活用を念頭に置いて、力を入れたい。

障
害
者
の
就
労

- 障害者がアートパフォーマンスを発揮する機会を設けることも意義がある。
- 職場実習や職場体験活動は、障害者を就労に結びつける手法であり、産業界と学校をつなぐ大きなコミュニケーションの場。
- 就労と住居、医療・介護を地域で確保するため、地域福祉計画を策定し、社会参加、アート、スポーツなどの活動を考える。

地
域
ス
ポ
ー
ツ

- 地域でスポーツを振興する中に、学校スポーツをうまく位置付けたい。
- 体育協会と総合型地域スポーツクラブの関係、部活動と総合型地域スポーツクラブの関係についても検討していく。
- 高齢者の参加、活用は重要な課題であり楽しみ。

教育全般及びサミットの今後について

- 日本全体で、教育課題に向かうという気風が出てきている。
- サミットで扱う議題が十分に広がってきた。部会内だけの議論でなく、関係の色々な情報を取り入れ、進捗をみて今後のスケジュールを検討する。
- 第1部会は、広く教育に関する基本的なことを扱う部会とする。広いテーマになった際には、メンバーの拡大や外部の講師の招聘により議論を深めていく。
- 今後、1年ないし1年半かけて奈良県教育の基本的な考え方を確立し、場合によっては条例に反映していきたい。

<各委員発言要旨>

- 地域と学校が双方向で教育の充実、多様化に関わるのが大事。
- 多くの人に見つめられている感覚が今の子どもたちにとって必要。
- 地域の中で、学校の一番身近に存在するのは保護者であり、地域の力を借りて、保護者に力を付けていかなければならない時期にきている。
- 奈良モデルのメリットを継続し、定着させることが非常に大事。



- 基礎学力やコミュニケーション能力を、学校教育や家庭教育、特に親としてきちんとやってもらう必要がでてきた。人的資源をきちんと作っていかねばならない。
- 企業は、採用時に、即戦力を求め出している。
- 経済界と大学との意思の疎通が十分でないのではないか。
- 奈良の企業や産業の魅力を、高校生・大学生が学ぶことで、奈良県内に就職する学生を増やしていくことを考えられないか。

- 学校と地域の事業所が、良い関係を結んでいる感じが感じとれる。
- 中学校の職場体験学習と、特別支援学校の職場実習とは、接続して考えられるのではないか。

- 少子化によって子どもが減っており、様々な組織が市町村単位で統廃合することが課題。
- 市町村では、行政中心となり、スポーツ大会等の事業を体育協会等の団体と相談しながら進めている。
- 学校の部活動に地域のスポーツ指導員が入り、充実させていく方向性が考えられる。
- 学校の閉鎖性を破り、地域と密接に情報共有をして、環境づくりを進めたい。

